

運動領域について

1 体育科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 学習指導要領の趣旨に基づいた授業づくり (教材・教具等の工夫)

① 楽しさ (楽しみ方) の明確化

- ・ 扱う運動の特性に応じた楽しさに触れさせること
- ・ 子供の実態を考慮した楽しみ方を探ること
- ※ 楽しい授業＝動く，できる，分かる，認められる，関わる，経験する

(例) 陸上運動 (ハードル走)

- ・ 競走したり記録に挑戦したりする楽しさ
- ・ スピードに乗り，ハードルをリズムカルに連続して走り越す楽しさ
- ・ グループ競争において，友達と協力し，工夫しながら練習に取り組む楽しみ方など

② 指導内容の明確化

- ・ 指導する「技能」「態度」「思考・判断」の内容を把握すること
- ・ 学習後の子供の姿 (before⇒after) をイメージして授業づくりを行うこと

(例) 陸上運動 (ハードル走) : after のイメージ

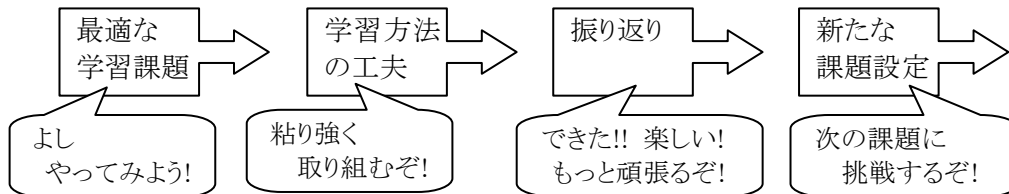
- ・ 自分に合ったインターバルのコースを見付け，3歩のリズムで走り越す姿
- ・ 仲間と協力して練習に取り組み，記録を計ったりグループ競争したりする姿など

③ 個に応じた指導法の明確化

- ・ 苦手な子供，前向きでない子供へのアプローチを考えること
- ・ 学習内容の習熟の程度に応じた指導の工夫をすること

(例) 陸上運動 (ハードル走)

- ・ ハードルに足をぶつける恐怖心を和らげるための工夫 (段ボールやスポンジハードルの使用)
- ・ 40m 走の記録をもとに，練習すれば手が届きそうな目標タイムを設定するなど



(2) 年間指導計画，単元計画 (指導と評価の計画) の作成

① 2年間のまとめりと系統性の明確化

- ・ 2学年をひとまとめりとした年間計画を作成すること
- ・ 指導内容と前後の学年とのつながりを整理すること
- ・ 他領域や他教科，特別活動等との関連を図ること

② 指導と評価の明確化

- ・ 評価規準と評価計画を作成すること
- ・ 評価規準の設定については，「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所 H23.11) を活用すること

- ・ 「単元の評価規準」は，「評価規準の設定例」を参考に必要に応じて修正し，作成する。
- ・ 「学習に即した評価規準」は，指導計画に基づき，「単元の評価規準」を具体化して作成する。
- ・ 指導したことを評価する原則を大切にすること
- ・ 評価を指導の改善につなげることの習慣化を図ること

## 小学校 体育科

### ③ PDCA を意識した授業づくり

- ・ Plan：授業内容の明確化・重点化（本授業で子供に身に付けさせたいことは何か）
- ・ Do：指導方法の工夫（それに向けてどのように授業を仕組み、指導するのか）
- ・ Check：到達度の把握（結果として身に付けさせたいことが身に付いたか）
- ・ Action：指導の改善と子供への支援（身に付かなければ、どのような改善を図るのか）

## 2 体力向上についての総合的な取組

### （1） 体育学習と日常的な運動・スポーツとの関連

- ① 平成 24 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から
  - ・ 「運動が好きな子」「運動が得意だと思っている子」は、体力合計点が高い
- ② 「運動好きの体育嫌い」という課題
  - ・ 学校教育で楽しさ体験・豊かな関わりを通して、運動好きを育てること
  - ・ 指導法の改善を通して、運動好きを育てること

### （2） 学校・家庭・地域の連携

- ① 学校からの発信：子供の体力低下の現状，運動の二極化，運動の意味や価値等
- ② 家庭の理解：子供の体力低下や二極化等への関心，生活習慣や運動習慣等の改善等
- ③ 地域との連携：子供の運動機会の保障，課題意識の共有，体力向上への取組連携等

## 保健領域について

### 1 「生きる力」を育む小学校保健教育の手引より（学級担任が授業をするための手引）

#### （1） 学校における保健教育の意義

- ① 「生きる力」を育む保健教育
  - ・ 「健やかな体」を基盤として「確かな学力」「豊かな心」がある
- ② 子供たちの健康課題の解決を図る保健教育
  - ・ 健康課題を解決していく授業づくりを行うこと
- ③ 心身ともに健康な国民の育成を目指して，その基礎を築く小学校からの保健教育
  - ・ 小学校の教育関係者が保健教育の重要性を認識し，責任を自覚して実践すること

#### （2） 指導の基本的な考え方

- ① 小学生期の心身の発育・発達や健康上の特性を踏まえる
  - ・ 「発育」「集団との関わり」「学習能力等」から小学生の心身の発育・発達を捉えること（「生きる力」を育む小学校保健教育の手引 P5 表 1-1 参照）
- ② 各教科等の特性を生かす
  - ・ 各教科，総合的な学習の時間，特別活動，道徳の時間との関連を図ること
  - ※ 健康課題に関する子供の個別性が大きい場合，個別指導も取り入れる（養護教諭の協力）
- ③ 指導計画の立案を通じ，教職員の共通理解を図る
  - ・ 指導計画を作成する段階から教職員の共通理解を図り，授業で理解を深めること
- ④ 家庭や地域との連携により効果を高める
  - ・ 健康課題によっては，課題の背景や要因が家庭や地域と関連している場合があるため，解決には家庭や地域，保健医療等の関係機関などの協力を必要に応じて得ること